

令和元年度 まちづくり月間関連国土交通大臣表彰

1. 第8回 まちづくり法人国土交通大臣表彰
2. 第1回 コンパクトなまちづくり大賞
3. 第1回 先進的まちづくり大賞
4. 第14回 住まいのまちなみコンクール
5. 第21回 まちづくり・都市デザイン競技

<問い合わせ先>

【まちづくり法人国土交通大臣表彰】

国土交通省 都市局 まちづくり推進課 TEL 03-5253-8407
<http://www.mlit.go.jp/>

【コンパクトなまちづくり大賞】

コンパクトなまちづくり推進協議会
事務局 (一財) 都市みらい推進機構 TEL 03-5261-5625 <http://www.compact-net.org/>

【先進的まちづくり大賞】

コンパクトなまちづくり推進協議会
事務局 (一財) 都市みらい推進機構 TEL 03-5261-5625 <http://www.compact-net.org/>

【住まいのまちなみコンクール】

(一財) 住宅生産振興財団内 住まいのまちなみコンクール事務局 TEL 03-5733-6733
<http://www.machinami.or.jp>

【まちづくり・都市デザイン競技】

(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター TEL 03-6912-0799
<http://www.udc.or.jp/activities/design/>

第8回まちづくり法人国土交通大臣表彰

「まちづくり法人表彰」は、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるまちづくり法人が中心となった先進的な取組を奨励・普及するため、地方公共団体や関係団体の協力の下、平成24年度に創設された国土交通大臣表彰制度です。

主催：国土交通省

共催：(公財) 区画整理促進機構、(一財) 国土技術研究センター、(公社) 全国市街地再開発協会、(公財) 都市計画協会、(独) 都市再生機構、(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター、(一財) 都市みらい推進機構、(一財) 民間都市開発推進機構

表彰の対象

都市の課題を解決する先進的な取組を行っているまちづくり法人（まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的とする会社、特定非営利活動法人、一般社団法人（公益社団法人含む）及び一般財団法人（公益財団法人含む））等

審査

応募資料をもとに、学識経験者等からなる審査委員会による審査を行った上で、選定いたします。審査においては、①先導性、②公益性、③多様性、④継続性、⑤効果の視点により評価を行います。

< 国土交通大臣賞 >

表彰対象者	所在地	活動概要
株式会社 紀州まちづくり舎	和歌山県 和歌山市	中心市街地の商店街で定期的なマルシェを継続開催し、多様な主体の参加拡大、新規出店の誘発、クラウドファンディングも含めた自主財源による安定的な運営が図られるまで成長するとともに、空き店舗のリノベーションによる事業者誘致やトライアル出店の場の提供、更には都市再生推進法人として水辺空間の活用等にも取り組み、まちなかの賑わい再生と地域の価値の向上に大きく貢献しています。

< 審査委員長賞 >

表彰対象者	所在地	活動概要
泉中央駅前地区 活性化協議会	宮城県 仙台市	泉中央駅周辺において、地域住民等が自ら企画・実施するイベントを長年継続するとともに、駅前広場の運営管理と利活用を道路占用の特例により担うことで、来場者の増加が図られているほか、広場の使用料や広告料収入等により持続的な協議会運営が可能となり、賑わいや快適な空間の創出による地域活性化に貢献しています。
加賀まちづくり 協議会	東京都 中央区	加賀前田藩下屋敷跡地という地区の歴史・環境を保全しながら、職と住が共存できる民間開発の受入れのため、任意のまちづくり計画の策定と地区計画提案への進化、地域住民・企業・公共施設管理者等が連携した事業者との協議を通じ、地元ニーズに即した、ゆとりある公共的空間の整備を実現しており、地域の価値向上に貢献しています。
株式会社 WAKUWAKU やまのうち	長野県 下高井郡 山ノ内町	空き店舗増加・観光客減少の負の連鎖から脱し、インバウンドによる湯田中温泉街の再生を図るため、遊休物件のリノベーションによる滞在環境の整備、地元ベテラン有志による若手経営者の人材育成・誘致、効果的な情報発信等に取り組み、短期間での外国人宿泊者の倍増、後続店舗の参入など街の雰囲気が変わり、地域の活性化に貢献しています。

※ 第8回まちづくり法人国土交通大臣表彰における詳細については、別途プレスリリースの【第8回まちづくり法人国土交通大臣表彰】受賞者の決定をご参照ください。

第1回 コンパクトなまちづくり大賞

1. コンパクトなまちづくり大賞について

コンパクトなまちづくり大賞は、改正都市再生特別措置法による立地適正化計画制度、これに併せた事業制度としての都市再生整備計画事業（旧まち交）を始めとするまちづくりのための各種事業を活用し、地域の創意工夫のもと、コンパクトなまちづくりを推進し、他のモデルとなるまちづくりの取組事例を表彰して、全国に紹介することを目的として、これまで2回実施した「コンパクトシティ大賞」と13回実施した「まち交大賞」を発展的に統合し、以上のような事業や取組の一層の促進を支援しようとするものである。

2. 主催・後援

主催：コンパクトなまちづくり推進協議会、(一財)都市みらい推進機構
後援：国土交通省

3. 実施方法

全国の市区町村から応募のあった都市の中から、受賞都市を選定する。

【総合戦略部門】

立地適正化計画及び関連計画を公表し、「地域活力を推進するまちづくり」または、「既存公共ストックを活用したまちづくり」に関連する取組を行っている市区町村

【個別事業部門】

まちづくりにかかる事業（都市再生整備計画事業、市街地整備事業等）のいずれかを完了し、一定の成果をあげている市区町村

【審査委員会】第1回：平成31年4月3日(水)

第2回：令和元年5月17日(金)

委員長 高橋洋二 東京海洋大学名誉教授

【表彰】令和元年6月まちづくり月間中央行事 他

4. 表彰

【総合戦略部門】

①国土交通大臣賞（1点）

特に優秀な都市

②コンパクトなまちづくり推進協議会会長賞（1点）

優れた都市

【個別事業部門】

①国土交通大臣賞（1点）

特に優秀な都市

②都市みらい推進機構理事長賞（1点）

優れた都市

第1回コンパクトなまちづくり大賞受賞地区一覧

賞	都市名	概要
<p>総合戦略部門 国土交通大臣賞</p>	<p>藤枝市 (静岡県)</p>	<p>藤枝市では、官民連携による中心市街地への都市機能の誘導や中心市街地の既存ストック高質化と活用による賑わい創出、スマートモビリティの挑戦、官民連携による身近な移動手段の確保やICTを活用した防災まちづくりなど、都市課題への対応策が多彩であり、計画自体もよく分析をされている。なかでも、市有地を官民連携で活用した活動・交流拠点づくりや道路空間や駅前広場などを活用した賑わいの創出と回遊向上の取組等既存ストックを活用したまちづくりが優れていると評価されました。</p>
<p>総合戦略部門 コンパクトなまちづくり推進協議会 会長賞</p>	<p>西脇市 (兵庫県)</p>	<p>西脇市では、まちの現況及び将来動向を丁寧に分析し、誘導施策を明確にするため、人口減少が顕著な中心市街地と新興住宅エリアを核とした2つの都市機能誘導区域とそれを取り囲む居住誘導区域を設定している。将来人口減も踏まえ、限られた区域を中心とした誘導施策に取り組むとしている点や地域資源である「播州織」をキーワードにしたファッション都市構想を策定し産業施策と連携したまちづくりを進めている点が評価されました。</p>
<p>個別事業部門 国土交通大臣賞</p>	<p>都城市中央 地区 都城市 (宮崎県)</p>	<p>都城市では大型店の跡地等を活用した図書館等の複合的機能やまちなか広場整備を都市再生整備計画事業で行うことで、交流人口が大幅に増大し、まちの賑わいを取り戻すきっかけとなりつつあり、公共施設整備主体ではあるが、個別の施設の整備内容や指定管理者による施設運営に工夫がみられる。空き店舗の減少等周辺地域へ効果の波及が徐々に始まっており、今後、低未利用地等を活用した住環境の整備等により、定住化も進んでいくものと期待できる点が高く評価されました。</p>
<p>個別事業部門 都市みらい推進機構 理事長賞</p>	<p>釧路中心 拠点地区 釧路市 (北海道)</p>	<p>釧路市では、民間事業者が新規整備したビルのフロアを長期に賃借(30年間)して内部を図書館として移転整備する手法(PPP)を採ることにより、図書館整備にかかる市の財政負担の軽減が可能となりました。新図書館がきっかけとなり、空きビルを改修した新たな飲食店の開業等、地域への波及効果や経済活動の活発化の促進につながっていること、また、民間ビルの再生と連携した公共施設整備のあり方を示す取組であることが評価されました。</p>

第1回 先進的まちづくり大賞

1. 先進的まちづくり大賞について

先進的まちづくり大賞は、他の地域のモデルとなるような「健康・医療・福祉」「エネルギー・環境・省エネ」「安心・安全」「防災・減災」「交通」「インフラ（上下水道等）」「コンパクトシティ」「既存ストック・歴史的資産の活用」「リノベーション」「公民連携・官民連携」「ファイナンス」「タウンマネジメント・エリアマネジメント」「ブランディング」等をキーワードに、都市課題の解決や次世代型都市の創出に繋がる『先端技術』や『新しいまちづくりの手法』を活用した先進的なまちづくりの取組を表彰し、国内外に広く情報共有、発信することにより、先進的なまちづくり事例の普及や取組の一層の促進支援を図ることを目的に、平成28年度から30年度まで国土交通省主催で実施された「先進的まちづくりシティコンペ」を引き継いで実施するものである。

2. 主催・後援

主催：コンパクトなまちづくり推進協議会、(一財)都市みらい推進機構
後援：国土交通省

3. 実施方法

全国の市区町村等から応募のあった地区の中から、受賞地区を選定する。

【対象地区】

まちづくりにかかる取組・活動を実施し、一定の成果をあげている市区町村の取組、または、まちづくり団体等（企業、NPO、協議会等。）による取組。

【審査委員会】第1回：平成31年4月3日(水)

第2回：令和元年5月17日(金)

委員長 高橋洋二 東京海洋大学名誉教授

【表彰】令和元年6月まちづくり月間中央行事 他

4. 表彰

①国土交通大臣賞（1点）

特に優秀な地区

②都市みらい推進機構理事長賞（1点）

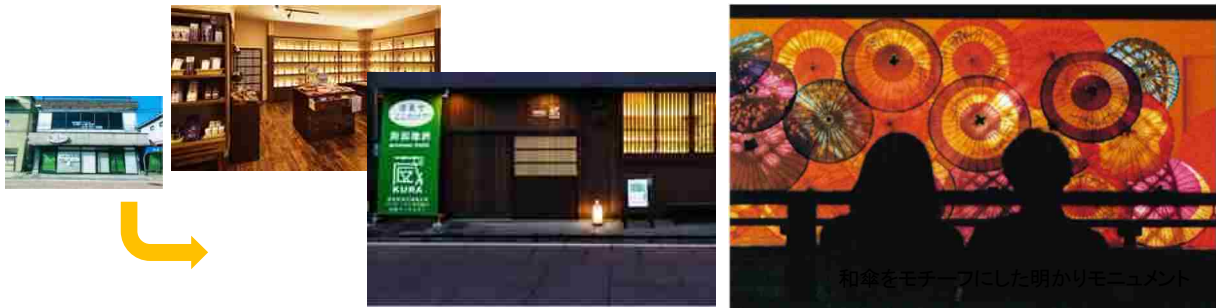
優れた地区

第1回 先進的まちづくり大賞受賞団体

● 国土交通大臣賞

取組名：月岡温泉地区 「歩いて楽しい温泉街へ」 空き家・空き店舗再生事業
応募者：合同会社ミライズ
所在地：新潟県新発田市

閉鎖店が増加し著しく景観を阻害していた温泉街において、地区の若手経営者が自ら合同会社を設立し運営する民間によるリノベーション事業。宿泊客を自社の旅館に囲い込むのではなく街中に出すことをコンセプトに、温泉街に点在する空き店舗を、新潟の食をテーマにした体験型店舗等に再生するなど、歩いて楽しめる温泉街づくりを継続。行政や観光協会の協力も得て、温泉街全体の景観改善、回遊による賑わいを創出し、その独創性、持続性、普及可能性、成果が高く評価されました。



体験型店舗 新潟地酒 PremiumSAKE 蔵 KURA

和傘をモチーフにした明かりモニュメント

● 都市みらい推進機構 理事長賞

取組名：川西市キセラ川西地区
キセラ川西整備事業－「PFI と低炭素と市民参加のまちづくり」－
応募者：川西市
所在地：兵庫県川西市

数事例に留まる区画整理における PFI の採用及び全国初の低炭素まちづくり計画の両輪での取組。基盤整備に加えたまちづくりコーディネート業務や多様な主体からなるプラットフォームの形成を通じ、利用者自らが主体となるまちづくりを実現するまでに進化し、市民が主体的にかかわる魅力的な公共空間の実現、継続的発展が期待できる仕組みを構築、その先進性、独創性、成果が評価されました。



公園及び遊歩道



水路での水生生物観察

第14回 住まいのまちなみコンクール

1. 住まいのまちなみコンクールについて

人口減少社会の中、まちの価値の落ちない、選ばれる地域づくりが求められています。「住まいのまちなみ」は、地域の方々が積極的に維持管理、運営することで、豊かな暮らしの場へと育まれていきます。また、高齢化や防災・防犯、低炭素化などの社会的課題に対応しながら、多世代がとものまちの価値を守り育て、住み継ぐことができるまちとしていくことが大切です。このためには、地域の管理や交流活動のほか、空家の利活用等による地域の活性化、新たな入居者の受け入れを含むコミュニティの形成など、多様な取り組みが必要となります。

このコンクールでは、地域の特性を活かし、魅力的な住まいのまちなみを育む維持管理、運営などの活動に実績を上げている住民組織をまちづくりのモデルとして表彰し、支援します。

2. 主催・後援

[主 催] まちづくり月間全国的行事実行委員会、(一財)住宅生産振興財団、
(一社)すまいづくりまちづくりセンター連合会

[後 援] 国土交通省、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構、
(一社)住宅生産団体連合会、(公社)日本建築士会連合会、
(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)ハウジング・アンド・コミュニティ財団

3. 事業実施経緯

[応募期間] 平成30年5月1日～平成30年8月31日

[審 査] 第1回 平成30年10月1日
第2回 平成30年12月10日

[審査委員]

委員長 藤本 昌也 (建築家/ (公社)日本建築士会連合会名誉会長)
委員 上山 良子 (ランドスケープアーキテクト/長岡造形大学名誉教授・前学長)
大月 敏雄 (東京大学教授)
小林 靖 (国土交通省大臣官房審議官)
齊木 崇人 (神戸芸術工科大学学長)
徳永 幸久 (国土交通省大臣官房技術審議官)
森 まゆみ (作家・編集者) (五十音順/敬称略)

[発 表] 平成31年1月

[表 彰] 令和元年6月14日(金)「まちづくりと景観を考える全国大会」

4. 審査結果

国土交通大臣賞・・・1団体

- 柏ビレジ自治会（柏ビレジ地区）（千葉県柏市）

住まいのまちなみ賞・・・4団体

- 東川町中央自治振興会（グリーンヴィレッジ地区）（北海道上川郡東川町）
- 東松島市あおい地区会（あおい地区）（宮城県東松島市）
- 御池台校区連合自治会（御池台地区）（大阪府堺市）
- 緑の回廊まちづくりを推進する会（前地1・2丁目地区）（埼玉県さいたま市）

国土交通大臣賞

柏ビレジ自治会（柏ビレジ地区）（千葉県柏市）

1981年から入居を開始した総区画数約1,600戸のニュータウンで、アイビーとシンボルツリーを主とした植栽を街全体に配し、低層住宅の外観を赤レンガで統一した美しいまちなみを建築協定や緑地協定で保全しています。

自治会は、NPOやボランティア団体を含む多数の団体と連携しており、環境維持やシニアクラブなどのコミュニティ活動も活発です。また、大学とも連携してシンポジウムやワークショップを開催し、住民の高齢化に伴って生じる課題の洗い出しや論点整理、活動の優先順位付けなどを行うとともに、助け合いや住環境保全を目的とした活動を続けており、こうした組織体制や課題への取り組みが高く評価されました。



第21回 まちづくり・都市デザイン競技

1. 主 旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要です。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、そしてその魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、まちづくりの企画・デザイン技術の向上、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的に平成10年度より毎年実施しているものです。

2. 競技対象地区

競技の対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から、愛知県春日井市の「高蔵寺ニュータウンセンター地区」（約21.3ha）を選定しました。

3. 競技課題

まちびらきから50周年を迎えた「高蔵寺ニュータウン」全体の将来像を描きつつ、センター地区がどうあるべきか、あるべき姿を見据えた再編方針とまち全体の新たな魅力を引き出すためのセンター地区の都市デザインのアイデアを求めました。

4. 応募作品数

競技へのエントリーが62グループあり、最終的に提出された応募作品数は33作品でした。

5. 主催・後援

- (1) 主 催 : まちづくり月間全国的行事実行委員会
(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター
- (2) 後 援 : 国土交通省、春日井市

6. 競技実施経緯

- (1) 応募登録期間 : 平成30年 9月 3日(月)～12月10日(月)
- (2) 作品提出期間 : 平成31年 2月15日(金) 締切
- (3) 審 査 : 平成31年 3月 5日(火)
- (4) 表 彰 : 令和元年 6月14日(金) 「すまい・るホール」(住宅金融支援機構内)

7. 審査委員

- 委員長 : 西 村 幸 夫 (東京大学教授)
- 委 員 : 石 川 幹 子 (中央大学教授)
- 岸 井 隆 幸 (日本大学教授)
- 高 見 公 雄 (法政大学教授)
- 藤 本 昌 也 (建築家)
- 渡 邊 浩 司 (国土交通省都市局市街地整備課長)
- 伊 藤 太 (春日井市長)

(順不同)

8. 審査結果

審査の結果、次の通り各賞が選定されました。

- 国土交通大臣賞(1点)・・・株式会社地域計画建築研究所(アルパック)(絹原 一寛 ほか 5名)
- まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞(1点)
・・・滋賀県立大学環境学部環境建築デザイン学科(村上 修一 ほか 6名)
- (公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞(1点)
・・・大成建設株式会社(石田 武 ほか 14名)
- 奨励賞(1点)・・・千葉大学大学院園芸学研究科(程 絢 ほか 3名)
- 春日井市長特別賞(1点)・・・Lynx高蔵寺/山上建築設計(山上 健 ほか 4名)

国土交通大臣賞 受賞作品

高蔵寺ハート - まち・ひと・ことが循環するいきいきとした暮らしをまちに広げる -
 絹原 一寛 他5名 (株式会社地域計画建築研究所 (アルパック))

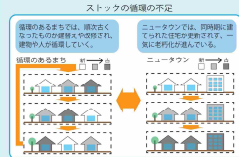
高蔵寺ハート - まち・ひと・ことが循環するいきいきとした暮らしをまちに広げる -

ニュータウンが抱える構造的な課題

高蔵寺ニュータウン・センター地区の現状・課題

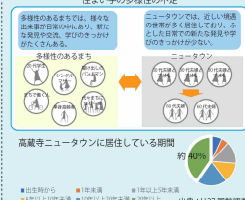
住宅ストックの老朽化

- ニュータウンでは、一時期に集中して建てられた住宅により、循環的な建築による多様な新築代替が起りにくい。その結果、近年になってほとんどニュータウンで住宅の老朽化、入居者の転出が大きな問題となっている。
- 高蔵寺ニュータウンにおいても更新が必要な住宅ストックが今後増加する。空き家の増加も課題となっており、適切なストックの更新が求められる。



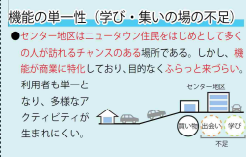
ひとの固定化

- ニュータウンに居住する世帯は、多くが都市に通勤するファミリー層であり、住まい手の多様性に乏しく、新たな発見や学びのきっかけを手にしにくい。
- 宅地開発当初に住んでいる住民の割合が高く、新たな住民や子供に生まれ育った世代の割合が低い。



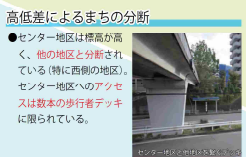
まちに出かける必要性の低下

- 以前は商店等に自身が出向いて商品を購入しかなかったが、インターネットの普及により、出かける必要がなくなり、わざわざ出かける必要がなくなった。



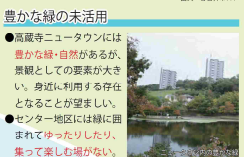
車が優先される交通インフラ

- 高蔵寺ニュータウンは郊外かつ高低差が大きいため、幹線道路を整備し、車で移動が基本である。
- センター地区も車のアクセスを基本として計画されており、歩行者が優先されず、回遊性もない。



多様な暮らし方への対応

- DIY居住やリモートワークなど、多様な暮らしは今後よりいっそう普及すると考えられる。
- また、高齢化の進行により、移動できない居住者が今後増加して行くことも予想される。



まちを持続させるため、ストック・居住者の循環による多様性の獲得が必要

まちに出かける目的を見いだす多様な機能や空間が必要

歩いて楽しめる交通（移動）環境をつくり出すことが必要

多様な暮らし方を支えるネットワークや暮らしを支える豊かな集い場が必要

コンセプト 「高蔵寺ハート」

コンセプトダイアグラム

高蔵寺ニュータウンはワンセンター方式で計画された。センター地区は、都市構造として、まちの人が集う可能性を持った、いわば高蔵寺の心臓部だ。
 センター地区を高蔵寺ニュータウンの心臓部と見立て、学びをはじめ多様な人が集い交わる機能を導入し、そこからひと・もの・ことが血液のように循環する仕組みを構築、ニュータウン全体にいきいきとした多様な暮らしを展開する。
 そして、高蔵寺は「つくられたまち」から「自分たちのまち」へと転換される。



高蔵寺ニュータウン「センター地区」のデザイン方針

学びの機能の導入	交通（移動）環境の整備	シェアリング・サービスの機能の導入	活動を育むみどりの創出	まちに関わる仕組づくり
<p>●「学び」は、単に多くの知識を吸収することではなく、様々な体験を通じて知識を組織、加工して自分の経験として活かしていくことである。</p> <p>●「学び」を通じて、自己実現やチャレンジ精神の醸成につながる、人の活動を活性化させるだけでなく、新たな人を呼び込む契機ともなる。</p> <p>●「学び」を契機に元気な人づくりやまちづくりにつながる好循環を生む空間デザインを提案する。</p>	<p>●高蔵寺NT内には幅広い幹線道路を中心とした交通ネットワークが形成されている一方、それが地区の分断にもつながっている。</p> <p>●またセンター地区は山に高低差のある地形で移動において肉体的・精神的負担を感じさせる。</p> <p>●これらの分断・高低差の要素を逆にとり、まちの個性に転換できるように空間デザインを提案する。</p>	<p>●従来の、センター地区へ足を運ぶことで様々な生活利便サービスが享受していたが、今やその利便性は双方方向のものとなり、かつ場所や時間を問わずサービスを受けることが可能となった。</p> <p>●技術革新等を背景に多様なライフスタイルや嗜好に対応できる機能導入を可能とする空間デザインを提案する。</p>	<p>●現状のセンター地区は緑地としての「みどり」はあるが、人が集う場所、ふれあう場としての「みどり」を備えていない。</p> <p>●ただ鑑賞だけの「みどり」でなく、私たちの暮らしを豊かにするとともに、にぎわい/回遊性など様々な活動を育む「みどり」の空間デザインを提案する。</p>	<p>●高蔵寺NTがこれらから持続的に成長していくために、DIY族やニュータウン70周年世代（NTで育ってきた）などが「新たな価値観」を感じ、住みたいと思えるまちになっていくことが必要。</p> <p>例：週末だけ「高蔵寺」、リノベーション etc</p> <p>●行政やまちづくり会社、住民などが連携しながらNT再生に取り組むことが必要となる仕組づくりを提案する。</p>
<p>【学び】を契機とした好循環</p> <p>学び、自己実現 チャレンジ精神の醸成、新たなプレイヤーの創出/促進等</p> <p>人が元気に</p> <p>地域社会への関わり、元気なまちづくり 高蔵寺NTの個性・魅力、新たなプレイヤーの獲得等</p>	<p>Before After</p> <p>移動の負担を軽減するコリドー（緑の軸）の配置 駐車場の地下化・デッキレベルでの移動の円滑化</p>	<p>【従来】 【今後】</p> <p>安心 安心 安心 安心 安心 安心</p> <p>シェアオフィス コワーキングスペース 移動型カフェ/バー ネットショップ 遊技場、タンス、スクリーン、映画機、ピアノ 遊技機モビリティ(PMD、カーシェア等) 公民館等で生涯学習、住民の交流など 移動型図書館 Web 生涯学習 等</p>	<p>【従来】 【今後】</p> <p>にぎわい 回遊性</p> <p>歩いて楽しめる 新たな発見や体験を もたらす</p>	<p>【従来】 【今後】</p> <p>市民、主婦、近隣の学生など 近隣の学生など 近隣の学生など</p> <p>高蔵寺NT 再生委員会</p> <p>まちづくり会社 行政 民間 NPO等</p>
<p>空間のデザイン方針</p> <p>●高校の再編（再配置）・図書館の配置 ●「学び」の空間のオープン化と機能のミックス化</p>	<p>空間のデザイン方針</p> <p>●移動の負担を軽減するコリドー（緑の軸）の配置 ●駐車場の地下化・デッキレベルでの移動の円滑化</p>	<p>空間のデザイン方針</p> <p>●センター地区を中心として、ひと・もの・ことを地区内外と結ぶスモールモビリティの導入・モビリティの通行を支える交通ネットワークの構築</p>	<p>空間のデザイン方針</p> <p>●回遊性を誘発する歩行者ネットワークの構築 ●住民が集い、自由に過ごすことが出来るオープンスペースの配置 ●直結し合うことが出来るみどりの配置</p>	<p>仕組みのデザイン方針</p> <p>●高蔵寺NT再生によるセミパブリック空間を活かした再生マネジメント</p>

高蔵寺ニュータウンの将来の姿 ~ ハートの再生による高蔵寺ニュータウン全体への波及

高蔵寺ニュータウンの「ハート」であるセンター地区の再生を通して、高蔵寺ニュータウン全体に好循環を生み出します。

学びの機能導入による波及	シェアリング・サービスの機能導入による波及	みどりの創出による波及	交通環境の改善による波及
<p>【暮らしのシーンA】</p> <p>●開かれたヤンバスから始まる若者と住民がそこで得た知恵を地域に還元する</p> <p>●高校生が地元の小中学校や幼稚園などへ講師として出張講座</p> <p>●地域住民が生涯学習を通じて学んだことを地域に還元 等</p>	<p>【暮らしのシーンB】</p> <p>●様々なサービスをシェアできる環境が整備されたことで新たな人の動きや経済活動が誘発される</p> <p>●UberEatsやWeb 講座など自宅にないが、多様なサービスが利用可能</p> <p>●センター地区に整備されたシェアオフィスでストレスなく仕事（名古屋圏での移動コストの削減）</p> <p>●福祉だけでなくレジャーやシェアサービス等が提供され高齢者の孤立化が防止 等</p>	<p>【暮らしのシーンC】</p> <p>●大きなみどりの空間の配置により、地域内外の人々の多様な活動を誘発する</p> <p>●広場を使った伝統的なイベントの開催</p> <p>●みどりを介した人々の交流（センター地区の広場/自体が集会所の場）等</p> <p>●みどりと積極的に関わることによる健康的な暮らしが実現する</p> <p>●南部山林から高森台公園までを含むみどりに包まれた健康的な暮らし</p> <p>●居住者の積極的な緑の創出への関与 等</p>	<p>【暮らしのシーンD】</p> <p>●交通センターの整備により、センター地区の交通結節機能が強化される</p> <p>●公共交通の利用者が増加するとともにセンター地区の利用者も増加</p> <p>●バス以外の交通手段としてNT全体での次世代モビリティの普及が促進</p> <p>●マッチネットワークの活用によりセンター地区やその周辺部を含む回遊性が充実・強化される</p> <p>●徒歩やスモールモビリティによる移動 等</p>

まち・ひと・ことが循環する学びのキャンパス空間

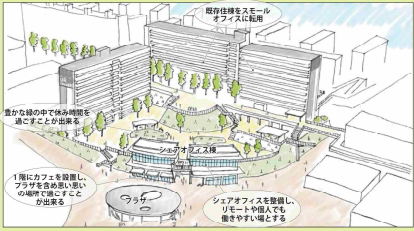
まちの学校 ～多世代が学び、交流する知の拠点～

- 多様な世代が学ぶことが出来る拠点として、高校生の特別教室機能を狙うとともに市民の生涯学習、全寮制学校（フォルクホーク・カレッジ）の学習拠点として利用され、アート、スポーツ、哲学、福祉等の学びが展開する。
- 様々な世代、専門が同じ場所での学び、活動することにより、**多世代の交流と活動の連携、幅広い展開**の誘致を狙う。
- まちの学校は人々が日常的に利用する街路側へ大きな開口部を持ち、中の子供がまちへ漏れ出る。
- 既存高校をセンター地区内に移転し、将来必要となる**団地建替のための種地**としながら、**まちの学校との結びつきを強める**。（普通教室はセキヤライ内に設置）
- プラザにはキオスクやラーニングセンターを設け、**人々が気軽に集まれる場と学ぶ場**を提供する。



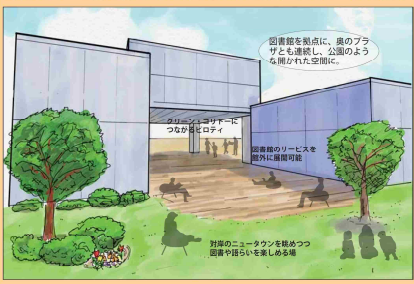
既存住棟街区・シェアオフィス棟 ～ニュータウンのストックを活用し、多様な働き方が実現できる場へ～

- 特徴的な住棟には**新たに高速ネットワーク環境を整備**、既存住棟をリノベーションしオフィスとしても利用。シェアオフィス棟を設け、一人でも快適に働くことが出来る環境を整備。
- 社会的に多様な働き方が広がる中、**名古屋市内からの便利なアクセス**を活かし、利用者は個人経営の小さな企業から都心にオフィスを持つ企業のサテライトオフィス等を想定。
- 職住近接によるワークライフバランスの向上と、学びの機能とも近接することで**新たなインフラや雇用の創出**が期待できる**魅力的な環境**を形成を目指す。
- 住棟の前には緑豊かな公園が広がり、仕事の休憩時間等の時間を気持ちよく過ごすことが出来、**都心は味わうことが出来ない労働環境**を実現する。



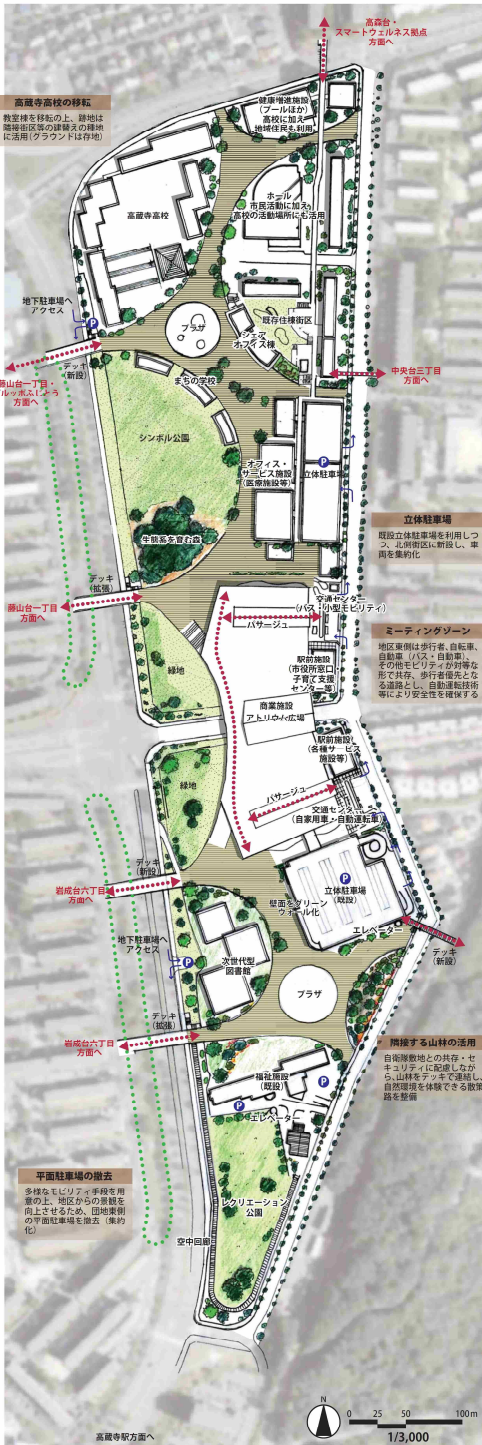
次世代型図書館 ～学びで生きる力を育むリブ・ライブラリー～

- 新たな学びの拠点として複合型の図書館を整備。多世代の学びと交流を促す場所として施設全体が**公園のように開かれた空間**。
- モビリティを活用し、周辺にもサービスを提供することが可能。
- 読者は全てデジタル化され貸与されるタブレットで閲覧できる。また、**学びを後押しするコンシェルジュ機能**を導入、学びの成果を投影して共有しながら新しい教材などを生み出す知恵の工房も併設。
- 保健センターも本施設内に組み込み、健康に関する体験・学びのサービスも提供。



グリーン・コリドー・ネットワーク ～キャンパスの背骨となる緑と知の回廊～

- 自動車単行の都市軸から、歩行者回遊により**知恵・知識の獲得・インスピレーションを誘発する新しい都市軸**として、空間を再構築する。
- 歩行者主体を前提としながら、超小型モビリティや、自動運転技術を搭載した許可車両の通行を認め、**人とモビリティの共存**を図る。
- 多層的な緑、花卉で四季や時間を感じられ、地形変化も含め多岐にわたる、歩いて楽しい小径とし、結節点には**出会いや語り合いが生まれる「フラリ」**を創出。
- 南西部の山林と北部の山林等を結ぶグリーン・インフラとしても機能し、**生物の生息空間**となるほか、**地球温暖化防止・ヒートアイランド対策**にも役立つ。
- 法人が土地を所有、道徳法、都市公園法にもならない公共的空間として、体系的に管理運営し、**柔軟な運用で市民活動や学びを誘発**する。



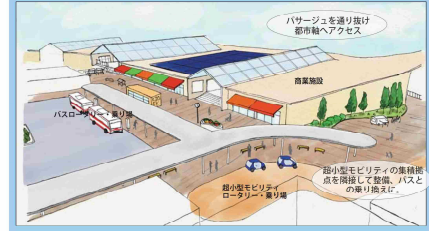
配置計画 ～2つの拠点を都市軸グリーン・コリドーで結び、南北を接続

- 開かれた学びのシンボル拠点として地区北側に高校を隣接地区から移転。南側に新たに図書館を配置し、歩行者回遊の都市軸となるグリーン・コリドーで結ぶ。
- 斜面地形を活かし、ニュータウンの眺望が得られる西側や、エントランスとなる南側に公園や広場を配置し、滞在できる憩いの空間に。
- 中央の商業施設を再整備し、コリドーにより道路線上に立体的に結びつけることで、南北の分断を解消。



交通センター ～在来交通手段から次世代モビリティへ乗り換える交通結節点～

- センター地区の中心に交通センターを設置。バスや自家用車からニュータウン内歩行者と共存することが出来る**スモールモビリティ（自動運転）**への乗り換えを行う場となる。
- スモールモビリティは団内での**交通弱者の移動手段**とすると共に**モノとサービスの輸送**。例えば、移動公民館はWEBで予約すると指定の場所まで机や椅子等の備品を運び、様々な場所で会議や活動を行うことが出来、今まで途中で完了していた活動がまちへ戻ります。
- スモールモビリティ例：移動会議室、移動調理室、移動視聴室等
- 多くの人が行き交う場であり、市民センターや子育て支援機能を近接させ、**市民サービスの向上**を図る。



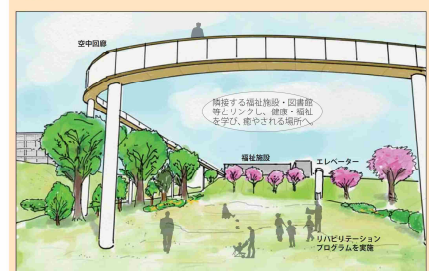
商業施設・アトリウム広場 ～南北街区と交通結節点を賑わいで繋ぐ

- 周辺部の住民もきめ日常的な買い物と賑わいの中心となる場所となるよう、商業施設はセンター地区の南北街区を跨ぐように設け、都市軸を施設上のデッキに引き込む。**高低差を解消**しながら、2つの街区をつなぎ、**センター地区の一体性**を高める。
- 交通センターと都市軸をバスターミナルによりつなぎ、**アクセス**を高め、**日常的な動線を商業施設内に取り込む**。駅沿いには小さな店舗を配置し、親密な商空間とする。
- 都市軸（デッキ）に接続するように施設中央にはアトリウム広場を設け、**買い物中の憩いの場**とすると共に商業施設と連携したイベント等が行われる。
- 建物西側には緑地を設け、デッキ上と「見る」「見られる」の関係をつくり、**多様な賑わいが広がる風景**を創り出す。



福祉施設・レクリエーション公園

- 既設の福祉施設はそのまま活用し、新たにレクリエーション機能に加えて**センター地区のエントランス空間**となる公園を整備する。
- 公園では**福祉施設、図書館とも連携**した学びによる成長・リハビリを誘発する。
- 高低差を活かし周辺を一望できる**空中回廊**を設け、ニュータウンの名所にする。
- 災害時の避難場所としても機能するよう、隣接福祉施設等と連携し**備蓄設備**を整備する。



グリーン・コリドーの活動創発プログラム

- 市民の**学び・交流活動を促進**するため、活動を実施することにポイントが貯まり、地区内のサービス（割引や特典）に使えるシステムを導入する。
- コリドー沿道の店舗などの**セットフォワード**（歩み出し）も奨励し、**デザインルール・ガイドライン**で質の高いディスプレイを誘導する。

MaaSの先導モデル・デッキネットワーク

- デッキ空間を、通行のみならず、人やもの、情報、活動の移動を促進する**MaaSのインフラ**とする。
- 周辺のウェルネスエリア、グルッポふじじょうや旧藤山台小学校の拠点、住宅街区を結ぶ、コミュニティ型モビリティサービスを展開。移動を通じた**地域の利便性・生活サービス**向上、活力創出に加え、**コミュニティの繋がりが強化**を狙う。

